

「地震保険現地対策本部」 調査の現場から見た

東日本大震災

とにかく、当面の生活費をまかなうことのできる地震保険は、「ほんまにいます！」



日本損害保険協会が、現地における統轄機関として設置した「地震保険現地対策本部」の様子。(高木職員が撮影)
全国の保険会社の職員が集結し、航空写真や衛星写真で状況確認できなかったすべての住宅建物を対象に現地調査を行い、損害の程度を認定。2012年2月1日現在で調査完了件数は855,692件。

損保ジャパン福山支社 高木職員へのインタビュ



高木 淳史 (たかぎ あつし) さん
株式会社損害保険ジャパン福山支社に勤務
ご出身は神戸市長田区長田町で1995年の阪神淡路大震災の際、ご自宅で被災(当時10歳)し、避難所生活を経験されている

Q、高木さんは昨年東日本大震災の損害調査の応援で福山支社から東北に向向されたということですが、どのあたりを調査されたのですか？
A、被害にあわれたお客様へ出来る限り早く保険金をお支払いするために、宮城県仙台市の災害対策本部が設置され、全国から職員が集まり、地震保険に加入されている方の損害調査と保険金のお支払い手続きをしてきました。
私は4月28日～5月末までの期間でしたが、主に宮城県南部の名取市・亶理郡山元町・松島町・柴田郡を担当し、1日5～6件調査していました。
Q、当時は被災者の方と連絡がつきにくかったと思いますが、どのようにコンタクトを取ってらっしゃったんですか？
A、そうなんです。
実際の調査にはご契約者様が立会いをしていただきますので、特に避難地区のお客様とのコンタクトは大変でした。あちこちの避難所を廻って探さなくてはいけなかったのです。

先日は小学校で避難してらっしゃった方が数日後には公民館に移動していたりと、ご本人にお会いできたときはほんまにほっとしました。とはいえお会いできてからが本番なんですけどね。
Q、実際に現場で調査をしてみて印象に残ったことなどはありますか？
A、実際私は震災2カ月後の東北で約1ヶ月間過ごしたんですが、テレビなどの映像である程度覚悟していたつもりでも、その被害のすさまじさを見ていてびっくりです。あと、映像では伝わってこない周辺においだとか。今思い出してもやっぱりつらいです。

また、依然行方不明者捜索中の立入禁止区域に入り、契約者の方と一緒に「ここに自宅があった」ことを確認したりもしました。



高木職員が主に担当した区域
期間中100軒を上回る建物の保険金調査に立ち会った



上下：高木職員が現場で撮影

強く印象に残っているのは、そうですね。どこか私には保険金を支払える立場というか、被災者の方にお役に立っているというふうな自信があつたんですが、あるご自宅を調査に伺った際、もち



上下：高木職員が現場で撮影

地震保険は絶対に必要な保険

Q、最後に一言いただけますか？
A、うまくまとめられませんが、私が一番伝えたいことは、地震保険は本当に「ほんまにいます！」ということですよ。
地震保険って、火災保険と通常セットになって申込をしますよね。
ただ、地震保険に入らない方には地震保険に申込をしませんという自署が必ず必要なんです。
他の保険では入りませんがわざわざ自署をいただく項目はありません。
それだけ地震保険は重要で、生活に直結する保険なんだということです。
直接お客様とお話できる機会を持つ代理店のみならず、是非、地震保険の重要性を訴えて、おすすめをしていただきたいと思います。

そうですね。私たちも大切なお客様をお守りするために、使命感をもって地震保険をおすすめしていきたいと思えます。高木さん、貴重なお話し本当にありがとうございました。



インタビュアー
(株)アルファ保険 財前 裕子

その時には将来保険の仕事をするとおっしゃっていましたが、その後縁あって保険会社に入社し、今回このような仕事をさせていだき...
少しもあのときの恩返しができなかな？と思っています。